

各港で歓迎を受ける「なとり」



門司港/12月11日

井本商運が43年前の創業時に初めて航路を拓いた門司港のコンテナターミナルに寄港。船内見学会を開き、橋本哲治・北九州市港湾空港局長が訪船し祝辞を述べた。また、鮫島船長、福田機関長に記念品や花束を贈呈された。



神戸港/12月14日

ポートターミナルで開催された見学会、レセプションには約250人の海事関係者が詰めかけ、同船の竣工を祝った。神戸市みなと総局の吉井真局長、阪神国際港湾会社の川端芳文社長などが出席。吉井局長は「神戸、大阪の港勢がここまで回復しつつあるのは井本商運のおかげといっても過言ではない。私にとっても井本社長は戦友だと思っている。今後も業界のトップリーダーとして内航フィーダー網を拡充されることを期待している」と語った。



横浜港/12月14日

横浜港大さん橋国際客船ターミナルで開催されたセレモニー、見学会では300人を超える関係者が詰めかけた。横浜市の伊東港湾局長も参列する中、井本社長は「大型化により国際フィーダー貨物と共に、国内貨物(動脈・静脈)をコンテナ化し、積み合わせることでモーダルシフトの需要を取り込み、使いやすい定曜日サービスを定着させていきたい。」と語った。



博多港/1月16日

博多港香椎コンテナターミナルにおいて、「なとり」の初入港セレモニー・見学会が開催され、福岡市港湾局の石原理事、博多港ふ頭(株)の阪下専務をはじめ約30人が出席した。石原理事は「博多港と井本商運の歴史は30年以上。ここに新たな歴史のページを作ることが出来、大変光栄。国際フィーダー輸送は、当然韓国でなく神戸港に接続されるのが、本来の姿。国内物流の拡大の面でも、側面から支えていきたい。」と語った。

